学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）異文化理解Ｃ	単位数	１単位	年次	３年次（４年制）
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在、多くの外国籍の方が日本に居住しており、グローバル化が急激に進んでいます。より多様な思想や文化を学び、それらを自らの生き方に反映させていくことが必要となります。教室での座学だけでなく、実際に異なる文化を持つコミュニティ（在日外国人コミュニティ、海外の現地社会など）に飛び込み、理論だけでなく実践として異文化を理解することを目的とします。自分の価値観が「世界の中の多様な価値観の一つ」であることを知り、グローバル社会で求められる柔軟性、判断力、そして多様な人々との共生意識を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
多文化共生社会における現代的課題（教育、就労、福祉等）に関する知識を習得し、フィールドワーク先のコミュニティが抱える課題や展望について構造的に説明できる。
【思考力、判断力、表現力等】
体験を通して得た情報に基づき、異なる文化的背景を持つ人々が共に生きるための具体的な支援策や共生モデルを構想し、それを論理的かつ説得力を持って提案できる。
【学びに向かう力、人間性等】
単なる見学者ではなく、社会の一員として「他者の痛みや困難」に共感し、自分にできる貢献は何かを主体的に考え、課題解決に向けた行動を起こそうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	海外研修やフィールドワークの体験内容、及びそれに付随する異文化に関する知識を正確に整理し、異文化理解の成果をレポートや成果物として明確に表現できている。	異文化体験から得られた自身の固定観念の打破や、多様性に対する洞察を論理的に考察し、説得力のある表現で自らの進路や社会との繋がりを見出そうとしている。	海外研修やフィールドワークにおいて、積極性をもって他者と交流し、文化的背景や習慣を学ぶ意欲が強くみられる。また、異文化特有の課題に対して粘り強く対応しようとする姿勢がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	事前学習	・訪問先の文化(歴史、習慣、社会構造)に関する基礎知識のインプット(ミニレクチャー) ・異文化コミュニケーションの基本スキル(非言語、傾聴)の学習とロールプレイング。 ・パスポート取得について	a: 多文化共生に関する用語や現状の統計データを正確に理解し、説明できている。 b: フィールドワークに向けた課題意識を明確にし、何を調査・学習すべきか具体的な計画を表現できている。 c: ロールプレイングにおいて、相手の立場に立った配慮深いコミュニケーションを実践しようとしている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	海外研修・フィールドワーク	・コミュニティの歴史や生活、文化施設を見学し、コミュニティの構成員と簡単な交流を試みる。 ・異文化が日本社会にもたらす影響と共生について、体験を通して考える。	a: フィールドワークを通じ、そのコミュニティ特有の強みや直面している社会的課題を整理できている。 b: 文化の衝突や共生の難しさを、個人の意識だけでなく社会制度の視点からも考察できている。 c: コミュニティの方々と深い対話を試み、相手の価値体系を内部から理解しようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	事後学習・発表	・研修やフィールドワークの体験を振り返り、個人レポートを作成する。 ・異文化交流で学んだ「多様性の受容」と「グローバルな視点」を、将来の進路にどのように活かすかを明確にする。 ・成果発表会(プレゼンテーション)を実施し、全生徒と共有する	a: 多文化共生の実現に向けた具体的な提言を含む、高度な振り返りレポートを作成できている。 b: 発表において、自身の将来の進路と「多様な人々との共生」を論理的に結びつけて表現できている。 c: 発表後の質疑応答に真摯に対応し、異なる視点からの意見を取り入れて考えを深めようとしている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度